

# 台風18号に伴う当面の農作物管理について

気象災害対策H28-5-②  
平成28年10月5日  
農林総合研究センター

## 1 気象の状況

強い台風第18号は、5日夜のはじめ頃から夜遅くにかけて石川県に最も接近する見込みで、暴風や大雨が予想されている。

### [雨の予想]

5日12時から6日12時までに予想される24時間降水量は多いところで、150ミリの見込み。

### [風の予想]

5日夜のはじめ頃から6日未明にかけて、風が非常に強く吹き、予想される最大風速（最大瞬間風速）は、陸上 20メートル（35メートル）の見込み。

このため、台風に伴う大雨や暴風による農作物被害が予想されるので、台風通過後の被害拡大防止対策を徹底する。

## 2 当面の農作物管理対策

### (1) 大豆

- ① 降雨では場が長時間冠水した場合、根腐れを起こすので、台風通過後は速やかな排水に努める。
- ② 降雨を伴った強風により莢腐敗の発生が懸念される場合は、収穫前日数を踏まえた上で、下記の薬剤防除を速やかに実施する。

<薬剤名>

ベルクトフロアブル	1000倍	100～300 $\frac{\text{㍓}}{10\text{a}}$	収穫7日前
アミスター20フロアブル	2000倍	100～300 $\frac{\text{㍓}}{10\text{a}}$	収穫7日前

- ③ 収穫にあたり、圃場によって着色粒や腐敗粒などの品質低下が見られる場合は、分別して収穫・調製を行う。

### (2) 大麦

- ① 播種時期直前となっていることから、通過前に額縁排水溝を点検し、ほ場内に停滞水が残らないようにするとともに、台風通過後はほ場巡回を行ない、排水状況を確認する。
- ② 播種作業は、土壌が乾くなど、ほ場条件が良くなるまで待つて実施する。なお、播種適期は10月中旬である。

### (3) 野菜・花き

- ① 強風のため、ねぎが斜めに倒れた場合は、葉しょう部の曲がり防止のため、台風通過後1～2日以内に起こす。
- ② 風でもまれた茎葉は、病害が発生しやすいので殺菌剤による予防と草勢回復のため微量要素入り液肥の葉面散布を行う。
- ③ 強風のため切り花が斜めに倒れた場合は、茎の曲がり防止のため、台風通過後2～3時間以内にネットを起こし元に戻す。
- ④ 花木・枝物の枝折れに対しては、枝の裂け等損傷の無い部分まで切りもどす。さくら、もも等は切り口に癒合剤を塗布する。

### (4) 果樹

- ① 落果したり傷害を受けた果実は早急に集め、用途別に処理する。
- ② 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ③ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ④ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質の維持と樹体の回復を図る。
- ⑤ ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ⑥ 被害を受けると樹体の貯蔵養分が不足し、翌年の生育に大きく影響する。貯蔵養分不足の影響を小さくするために、液肥の葉面散布や土壌施用を行い、養分吸収の促進を図る。
- ⑦ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。

### (5) 畜産

- ① 畜舎の再点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

### (6) 飼料作物

- ① 刈取り適期の牧草やスーダングラスは、天候をみて早急に刈取りする（倒伏したものは速やかに収穫し、品質の低下を防ぐ）。
- ② ロールバールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性の確保に努める。

### (7) その他

「気象災害対策マニュアル（農林水産部 平成20年3月発行）を参照し、現地の状況に応じて対策を行う。